

動きやすい体を育てる教育の実践

～「調整力」「柔軟性」「感覚統合」を育む基礎体育の指導を通して～

この度は、本校の研究発表会にご参加いただき、誠にありがとうございました。地域の皆様、他校の先生方をお迎えし、日頃の体育指導の実践と成果をご覧いただけたことを大変嬉しく思います。

ご多用の中、貴重なご意見や温かいご感想を多数いただき、教職員一同、心より感謝申し上げます。以下、アンケートの一部をご紹介します。



小学校の体育に関わることが多いですが、今日の授業のように発達の段階に応じて、適切な場が設けられ、自分の課題に合った運動に取り組めることを、小学校の現場の先生方に知っていただきたいです。

隣の場所で行っていることは次の自分のやることであり、目標にもなります。「ああなりたい」という憧れにもなると思います。

(参加者：小学校教員)

生きていく上で、必要な力の一つに、自分の体を自分でコントロールする力があるのだということに気がさせられました。

生きていく土台をつくる教育の在り方が素晴らしいと思いました。

(参加者：教育関係者)

先生方の日常の努力がよくわかりました。光の村の先生方は本当に素晴らしいです。

生徒全員が「待つ」と言うことが徹底されていることや、実態に応じて内容を少しずつ変えて「できる」を感じる様工夫されていると思いました。

(参加者：民生委員)

講師の秋山先生の実技講習を受けて、頭も体もすっきりしました。足首が硬い子どもへのアプローチや姿勢改善方法がわかってよかったです。今回の講義を参考に、再度メニューを見直して改善させていきたいと思っています。

(本校教員 振り返りより)

本発表会を通じて、支援学校の生徒たちが高い技能を身につけるまでの細かいステップの指導や支援の重要性を、改めて共有することができました。

頂いたご意見を励みに、今後も「歩きのカルテ」や「足圧測定」などのデータを活かした科学的なアプローチと、一人ひとりに寄り添った指導を深めてまいります。

来年度は、生活教育と体育教育をさらに結びつけた取り組みを発表できるよう、研究を進めていく所存です。

